

ラジオドラマで防災意識高めて

身近な題材 災害を実感

小中高など倉敷の4団体

来月、地元FMで放送

東日本大震災を教訓

に防災意識を高めようと、倉敷市内の小中高校とまちづくりグループの計4団体が、災害時を想定した「防災ラジオドラマ」を制作した。1月、コミュニティFM放送局「エフエムくらしき」(同市白楽町)で放送する。

被災地支援の在り方を考える協議体「DONATION(どねーしょん)くらしき」事務局(NPO法人倉敷町家トラスト、市などで構成)が企画。呼び



エフエムくらしきで放送されました!

防災ラジオドラマの収録に挑む玉島高の生徒ら

掛けに中庄小(同市中庄)、味野中(同市児島味野)、玉島高(同市玉島阿賀崎)、同市真備地区の住民グループ「川辺まちづくりNEO」が賛同した。10月からのワークショップで、市防災危機管理室職員や被災地を訪問した同事務局スタッフから災害について話を聞いたり、地域のハザードマップを確認しながら学習。それぞれの団体が東日本大震災や災害時の避難所で生活などをテーマにしたシナリオを作り、7分以内のドラマに仕上げた。玉島高の作品は、暴風警報で休校になり、テレビゲームをしながら過ごした高校生が翌日、床上浸水した家から泥だらけの畳を運び出すクラスメートを見かけるというストーリー。身近な題材で災害を実感できる想定を選んだ。1年吉原舞さん(16)は「(警報で)学校が休みになると嬉しい喜んでしまいがちだ

が、その中で大変な被害に遭っている人がいるかもしれないことを考えてもらいたい」と話す。作品は1月5日から26日までの毎週木曜日、同エフエムの番組「こくっち防災情報」(午後3時から30分間)で放送するほか、防災科学技術研究所(茨城県つくば市)が主催する「第2回地域発・防災ラジオドラマコンテスト」に応募している。(鈴木麻美)